

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

2017年春。 オールスターで新たなスタートを

病院長 田村 遵一

群大病院では、医療安全の確立に向け改革に取り組んで参りました。今後はさらに意識改革を徹底させ、医療安全と新規治療の審査・倫理審査をきっちりして、この分野で日本のトップを目指したいと思っています。そのために「医療の質・安全学講座」と「先端医療開発センター」を4月1日からスタートさせました。今後、さまざまな関係機関のご協力をいただきながら、本県全体の医療レベルの向上に貢献したいと思っています。

「医療の質・安全学講座」 「先端医療開発センター」開設

医療安全は、学問的には比較的歴史が浅い分野です。本院では確固たる安全体制を確立させるため、かねてより関わりのあった世界保健機関（WHO）と連携を取りながら、国際標準の教育や研究を推し進めていきます。

講座は学内に開設し、本大学の学生や本院関係者以外に、県内外の医療関係者も活用できることとしました。こうすることで、地域一丸となって医療安全に取り組む基盤が生まれます。将来的には医療安全分野で国際的な研究拠点をつくりたいと考えています。これは、関係者全員がその気にならないとできないことです。「みんなでやろう」と旗を振っていくことが私の役目だと思っています。

「先端医療開発センター」を、同じく4月1日に学内に設置しました。こちらは、P 2で詳しくお知らせします。

医療安全強化のための意識改革を推進

チーム医療についても多くご指摘をいただきました。そこで、学部学生のうちから医療安全教育を徹底させると同時に、チーム医療の演習も行います。近い

将来全学生が必ず受けなければならない単位制にしたいと考えています。保健学科と医学科の学生が、それぞれの立場から意見を出し合う実習を続けることで、実際にこの経験を患者さんに活かすんだ、という実感を味わってほしいと思います。



今後、院内の雰囲気も、職種や立場を超えて情報を共有したり、いい意味で批判し合えたりできるよう変えていきたいと思っています。そのために、今まで医学部の教授が中心になって行っていた病院運営を、准教授や講師・助教、看護師などそれぞれ秀でているメンバーに参画してほしいと思っています。オールスターで新しい風を吹かせたいと思っています。

みなさまのご意見をお寄せください

現在、私や幹部職員が、本院の診療科を訪問する巡視を月に1度、私単独での突然巡視を週に1～2度行い、職員の声を聞いています。

これからは、患者さん、ご家族の方、団体の皆様からのお話しもぜひ聞きたいと思っています。現在、ご意見箱をご用意していますが、今後はホームページを活用し、より広く、多くのみなさまからのお話しをうかがえるようシステムをつくる予定です。ぜひ、忌憚のない声をお聞かせください。私たちは、地域に開かれた病院を目指し、患者さんの声に真摯に向き合い、反映して参ります。



も く じ

- 2017年春。オールスターで新たなスタートを… 1 ページ
- 先端医療を安全に行うために …… 2 ページ
- 新年度ご挨拶・新任のご挨拶 …… 3 ページ
- 新規入社者の紹介 …… 3 ページ
- 患者さんの声 …… 4 ページ
- 公開講座・イベント情報 …… 4 ページ

先端医療を安全に行うために

先端医療開発センター
センター長 浅尾 高行



群大病院では、改革を目指して3つの取り組みを行います。1つ目は「医療の質・安全学講座の開設」、2つ目は「先端医療開発センターの設置」、3つ目は「地域医療研究・教育センターの開設」です。今回は、改革の2つ目の柱である、4月1日にスタートした「先端医療開発センター」について、浅尾高行センター長に聞きました。

Q.1 先端医療開発センターとは？

A.1 先端医療開発センターは、新しい技術や難易度の高い手術、新しい薬の使用、新しい機械を使った治療の実施を支援する部署です。今までは、上記のような先端医療を導入する際、判断は各診療科の医師に委ねられていました。これからは当センターが窓口となって各診療科からの相談や申請を受けます。先端医療の実施に携わるいくつかの部署を横軸として集結させ、病院全体の安全を担う組織として機能します。先端医療を必要とする患者さんの一層の安全確保のための推進役を務めるのが当センターの役目です。

Q.2 審査はどのような手順で進められますか？

A.2 まず、先端医療を行う前に各診療科の医師が当センターに申請や相談をします。次にその医療行為について審査に移りますが、当センターが直接審査をするわけではありません。審査をするのは、臨床倫理委員会などの専門委員会です。そこで専門の先生方の意見や、委員会で挙げた意見を当センターがまとめ、先端医療実施前にセンター内のミーティングでチェックし、承認されたら、各診療科に報告をします。先端医療終了後、安全に問題なくできたかどうかをチェックするのも当センターで行います。先端医療のビフォア・アフターを見定めるのも当センターの大切な仕事です。

Q.3 センターの構成メンバーは？

A.3 医師3人と、事務スタッフ1人が中心メンバーです。当センターの体制は非常にスリムです。全てが整った大きな組織ではなく、フットワークをよくして迅速に対応できるようにしています。対応する事例は広範囲にわたるので、そのつど適切な協力者をお願いをして参加してもらいます。週に1度開くミーティングは、メンバーの他、看護部、薬剤部、臨床試験部、医療の質・安全管理部などが仲間に加わります。病院をよくしよう、患者さん中心の医療をすすめようと考えているスタッフが集まってチームをつくっているのも、とても良い雰囲気です。多職種のスタッフが、1つの事例についてそれぞれの得意分野から意見を出し合い協力しながらすすめる「チーム医療」の考えを大切にしています。この取り組みを続けることで群大病院全体に「チーム医療」の意識が広がると良いと考えています。

また、事務スタッフがチームの一員としてミーティングに参加するのも、当センターの大きな特徴です。先端医療に明るい優秀な事務スタッフがいるからこそ、医師や看護師、薬剤師は自分の仕事に専念でき、医療の安全が実現できるのです。

Q.4 患者さんやご家族の方にとってのメリットは？

A.4 先端医療の実施に対する安心感が高まることです。新しい治療、先進治療、難度の高い治療など、一般病院ではできない医療を実践することは、大学病院の使命です。しかしながら、これにはリスクを伴うことも事実です。今までは診療科に任されていたので、それぞれの科によるばらつきやルールのちがいもありましたが、これからは統一のルールに則って先端医療を病院全体として支援し、安全に行います。先にご紹介しましたように管理体制も整っています。患者さん、ご家族の方には、どの診療科をお受けいただいても安全性の高い先進医療を安心して受けていただけるようスタッフ一同尽力して参ります。

新年度ご挨拶



副病院長（医療安全担当） 齋藤 繁

世界を見回しても社会情勢が安定しているとはいえない昨今ですが、医療安全に関しては群大病院周辺では相変わらず不安定さが完全には解消していない状況と言えるかもしれません。しかしながら、病院の改革計画は順次実働しており、掛け声だけでなく現場の作業の厳密性が格段に高まっていると感じる事が大変多くなりました。周辺医療機関と比較して遜色がないどころか、あきらかにお手本としてほしい事柄もさまざまにあります。通常よりも厳しい監視下での医療はともすれば萎縮医療になりがちですが、一般の医療機関では診療が難しい症例が集まる医療機関として、所属メンバーが胸を張って困難な疾患に立ち向かっていることの自負を持てるよう更なる発展的改革に取り組んでいかなくてはならないと思っています。引き続き皆様からのご理解ご協力をよろしくお願い致します。

新任のご挨拶



整形外科 教授 筑田 博隆

みなさん、こんにちは。整形外科の筑田と申します。この2月に、10年間勤務した東京大学から、群馬大学に赴任しました。私の専門は、脊椎の手術です。脊柱管狭窄症、靭帯骨化症、側湾症など背骨の病気でお困りの方がいらっしゃいましたら、ご相談ください。

整形外科では、骨折や関節・背骨の病気の治療を行っています。そのほか、スポーツ障害（半月板・靭帯）や肉腫とよばれる腫瘍の治療も得意分野です。また、がん患者さんの骨転移の治療にも積極的にとりくんでおり、各専門分野での研鑽をつんだスタッフがチームとなり、みなさん一人ひとりが、一番適した治療をうけていただけるようにしています。病気やけがをのりこえ、ふたたび、歩いたり走ったりできるようになるのは、すばらしいことです。みなさんから「群大病院にきてよかった」といわれるよう、スタッフ一同がんばります。よろしくお願いいたします。

看護部

新 規 入 職 者 の 紹 介

臨床研修センター



医師、看護師、薬剤師など、
総勢 **225** 名の職員が着任しました！
これからよろしくお祈いします！



初期臨床研修医オリエンテーション



研修会の様子



患者さんの声



駐車料金精算機に一時的に手荷物を置くテーブルが欲しいと思います。

このたびは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

写真のとおり、設置させていただきましたので、ご報告させていただきます。

〈駐車場責任者〉



病院内が広くて、場所を探して困りました。

このたびは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

お困りごとがありましたら、お近くにいる職員または外来棟1階の総合案内にお尋ねください。

また、外来棟1階から3階のエレベーター前に、診療科及び検査場所等のマップをタッチ操作で表示・印刷する端末を設置しています。お気軽にご利用ください。

〈医事課長〉



画面表示例



公開講座・イベント情報



名称：平成29年度群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座

●日時：平成29年6月17日(土)
13:00~16:30(開場12:30)

●場所：群馬会館
(前橋市大手町二丁目1-1)

●内容：がん治療をサポートするリハビリテーションと、がん患者さんのこころのケアをテーマに情報発信します。理学療法士及び精神科医による講演と交流茶話会(参加自由)を実施します。

●その他：参加費無料・事前申込不要。
駐車場は群馬県庁駐車場をご利用ください。

●問合せ先：群大病院医事課
Tel 027-220-7854



名称：第5回群馬リウマチネットワーク市民公開講座「学ぼう関節リウマチ」

●日時：平成29年6月25日(日)14:00~
開場13:00
医療相談15:30~16:30

●場所：群大病院内アメニティ講義室
(アメニティモール2階)

●内容：関節リウマチの患者さんやそのご家族を対象とした医師による講演と医療相談です。関節リウマチについてわかりやすくお話しします。

●その他：参加費無料です。医療相談はお電話にて事前のお申し込みが必要です。

●問合せ先：群大病院整形外科
Tel 027-220-8267

※詳細は群馬リウマチネットワークのHPをご覧ください。

<http://grn.med.gunma-u.ac.jp/>

名称：市民公開講座「肝がんを防ごう」

●日時：平成29年7月23日(日)
14:00~16:30

●場所：群馬会館 大ホール
(前橋市大手町二丁目1-1)

●内容：医師の講演が約90分、患者さんどうしの交流の場となる患者サロンが約50分となります。

●その他：参加費無料。定員200名。
要参加申込み。

※お席に空きがありましたら、当日でもご参加いただけます。

※講演のみの参加も受け付けております。

●問合せ先：群大病院肝疾患センター(消化器・肝臓内科)
Tel 027-220-8179

Fax 027-220-8127

群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第2号 2017年5月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2017年5月29日

ホームページ ■ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。